

# ロシア国立 ボリシヨイ・バレエ

衝撃のスペクタクル・バレエ  
「スパルタクス」!

## ハチャトウリアン 「スパルタクス」

2012

2.5 (日)  
PM 3:00開演

愛知県芸術劇場大ホール

S ¥ 21,000 A ¥ 18,000 B ¥ 14,000  
C ¥ 12,000 D ¥ 9,000 E ¥ 7,000  
学生 ¥ 3,000 (税込)

お問合せ  
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM9:30~PM5:30 / 土・日・祝日休業)

インターネットからでもお申込み頂けます。 <http://cte.jp> **中京テレビ事業**

### チケット販売所

チケットぴあ (Pコード 411-040)	0570-02-9999	栄プレチケ92	052-953-0777
愛知芸術文化センタープレイガイド	052-972-0430	中日サービスセンター(中日ビル1F)	052-263-7282
ローソンチケット (Lコード 41054)	0570-084-004	イープラス	eplus.jp 他

### 学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様までお願い致します。

●曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。 ●未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

5/28 (土) AM10:00 ~ 発売開始!

主催 / 中京テレビ放送

# 現代ロシア・バレエの最高傑作!

## スパルタクス あらすじ

紀元前73年～71年に掛けて、ローマ帝国の軍隊は軍事政管クラッスをリーダーとして近隣諸国を次々と征服し、何千人もの捕虜を従えている。スパルタクスもそのうちの一人。ローマの城壁のそばで、貴族に売られるための奴隷の選別が行われ、スパルタクスとフリギヤは抵抗もむなしく引き離され、フリギヤはクラッスに買われてしまう。

### 1幕

大宴会が開かれるクラッス邸で、酒宴に興を添えるために二人の剣奴が目隠して死闘に挑む。勝者の仮面が取られると、スパルタクスの姿が、自分と同じ虜囚を殺してしまったスパルタクスは、権力者への激しい憤りを感じ、剣奴の仲間と蜂起を誓い脱走を企てる。

アッピヤ街道。仲間を増やしながら進む反乱軍、リーダーはスパルタクス。クラッスの別荘を包囲する反乱軍、スパルタクスはそこで愛妻フリギヤと再会する。クラッスを殺そうとする反乱軍を制し、スパルタクスは決闘を望む。立ち向かえないクラッスは助けて欲しいと哀願、その腰抜けぶりを見てスパルタクスは放免する。

### 2幕

クラッスが反乱軍討伐に出発する。ローマ軍と反乱軍との戦いが繰り広げられ、クラッスによってスパルタクスは血祭りに上げられる。フリギヤの嘆きと悲しみ。スパルタクスの兵士達による静なレクイエムによって幕が閉じられていく。

### 3幕

## ボリショイ・バレエ

1776年、ピョートル・ウーロフ皇太子とイギリスの起業家マイケル・マドックスがモスクワにシアター・カンパニーを創立した。まさにその日から、ボリショイ劇場の歴史が始まった。初の常設カンパニー、長年にわたってこの国を代表する舞台という立場を獲得した、初のプロフェッショナルな劇場である。建築家オシプ・ボヴェとアンドレイ・ミハイロフは、後にこの古典主義的建造物の前面を、8本のドーリア式の柱と4頭立ての馬車を走らせるブロンズのアポロを戴くポーチコ(破風付きの玄関)で飾った。当時、バレエ団は47名のダンサーを擁した。

モスクワのバレエは、創立当初から独自の特徴を備えていた。演技が純粋なダンスに優先することを意味する、19世紀中期に創り上げられた「モスクワ・スタイル」である。「ドン・キホーテ」はモスクワからサンクトペテルブルグにもたらされ、この作品が、モスクワ・バレエの典型となった。

アレクサンドル・ゴルスキーは、20世紀初頭にバレエ団の長を務めた。彼の、時代精神を反映した振付アイデアは、ボリショイ劇場の新たな人気の興隆を明確に示すものであった。1930年代から1950年代中期には、演劇的バレエが席巻し、ロシア・バレエに多くの発展を与えたカシヤン・ゴレイゾフスキーによる実験的なバレエも見られた。また、ロスチスラフ・ザハロフによる「バフチサライの泉」、レオニード・ラヴロフスキーによる「ロミオとジュリエット」がレニングラードからもたらされた。モスクワのスターであったオリガ・レベシンスカヤやアサフ・メッセレル、ボリショイ・バレエ団に参加したレニングラード人のガリーナ・ウラノワ、アレクセイ・エルモラエフ、マリーナ・セミョーノワがこれらの作品を演じた。

新しい「ボリショイ・スタイル」の興隆は、ユーリー・グリゴローヴィチが芸術監督を務めた時代であった。彼は、その革新的な作品をレニングラードからボリショイへ持ち込み、古典バレエ(『スパルタクス』、『イワン雷帝』)の新バージョンを制作した。エカテリーナ・マクシーモワとウラジミール・ワシーリエフ、ナターリヤ・ベスマルトノワとミハイル・ラヴロフスキーなど世界的デュエットが登場したのはこの時代である。

2002年11月に新劇場がオープンして以来、チャイコフスキーやグラズノフによる古典的な傑作とともに、プロコフィエフによる「ロミオとジュリエット」の現代版など、レパートリーは拡大。他の新しい演目には、ショスタコーヴィチの音楽による3つのバレエ「明るい小川」、「ボルト」(ともにアレクセイ・ラトマンスキー振付)、ユーリー・グリゴローヴィチによる「黄金時代」、ローラン・ブティ、レオニード・マシニン、ジョージ・バランシンによる作品、ジョン・ノイマイヤーによる「真夏の夜の夢」、ユーリー・ボソフによる「シンデレラ」、およびボリショイ劇場のための特別に創作された若い振付家による作品などである。

2008年の来日公演では、「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」のほか「明るい小川」が上演され、大喝采を浴びた。

